

男女共同参画委員会主催物理学会シンポジウム

シンポジウム担当：鹿野 豊

(分子研、Chapman Univ. → 現：東大先端研、Chapman Univ.)

日時：2017年3月20日（月・祝）9時～12時30分

場所：大阪大学 豊中キャンパス S11会場（基礎工学国際棟シグマホール）

<https://yoyaku.es.osaka-u.ac.jp/sigmahall/index.html>

提案者：鹿野豊（分子研、Chapman Univ.）

世話人：高安美佐子（東京工業大学）

===== 報告書仕様 =====

a.領域名：物理と社会

b.シンポジウム主題：ジェンダー平等・ダイバーシティの拡大 ～日本物理学会男女
共同参画委員会の15年の活動を振り返って～

c.提案者（所属）：鹿野豊（分子研，チャップマン大）

d.シンポジウムプログラム：

はじめに（鹿野豊：分子研，チャップマン大），Gender Summit 10 日本開催について

て(渡辺美代子: J S T), Gender in the Physics Research Landscape - Output, Impact, Leadership - Insights for Evidence Based Policies (Karlsson Anders : Elsevier), 科学界における多様性 (坂東昌子 : NPO あいんしゅたいん附属機関 基礎科学研究所), 物理学会の男女共同参画活動と今後の方向性 (板倉明子 : 物材機構), パネル討論, おわりに (野尻美保子 : KEK)

e.報告 :

本シンポジウムは、2002年に設立された日本物理学会男女共同参画委員会の設立15年の節目の年に当たり、何故、「学会で男女共同参画活動なのか？」ということを中心から見直すことで、今後の活動における指針を学会員と共有しながら創りあげていくことを目的としたものであった。男女共同参画委員会の国際活動として参画しているJST主催(日本学術会議・Portia共催)のGender Summit 10 Asia Pacific(5月25・26日に東京・竹橋にある一橋講堂で開催予定)に関して主催者を代表して渡辺が報告し、日物応物男女共同参画連絡会が主担当となる分科会であるデータに見るダイバーシティ指標と研究活動に関してElsevierのKarlssonが報告をした。また、男女共同参画委員会がどのような経緯で発足、発展していったかに関して初代委員長である坂東から報告があり、現在の活動に関して72期の委員長である板倉より報告があった。パネル討論では、男女共同参画・ダイバーシティ活動において、昔から今も残り続ける問題が共有され、ライフワークバランス是正に関して、現役の子育て世代からの意見も

会場から挙げられた。参加者としては、過去に日本物理学会男女共同参画委員会に関わ
っていた委員なども見受けられ、のべ60名程度で終始和やかな雰囲気の中で議
論が行われた。

=====